

災害と人権・いのち・尊厳

～震災伝承の視点から～

宮城教育大学 特任教授 武田 真一

※注記のない写真・地図・記事は河北新報の震災関連紙面より引用

自己紹介

震災伝承と防災啓発の一端で務めを果たす

- ・1981年 河北新報社入社
- ・2011年 震災発生時に報道部長
以後、編集局次長、論説副委員長
- ・2016年「防災・教育室」新設と同時に、室長
震災伝承と防災啓発のプロジェクト専任で担当
- ・2019年 定年退職後、宮城教育大学へ
「311いのちを守る教育研修機構」特任教授
東北大学災害科学国際研究所学術研究員
★岩手、宮城、福島の語り部・伝承活動連携組織
公益社団法人「3.11メモリアルネットワーク」代表理事

まず、皆さんと確認したいこと
当たり前の事実



災害は日常課題を顕在化させる

【人権問題において平時でも大きな壁】

- ・気づかない、気づいていても深く考えない
- ・意図的に見ないようにしている、無視している

災害が起きると、それらは目の前に突然現れ、どうしよう、と対応を迫られる

石巻市で活動するNPO「TEDIC」の原点

震災当時・中学3年生、避難所に身を寄せた男の子の言葉

「震災があって僕は救われた」



元代表「支援活動は震災前から必要とされていた」

・解決迫られる一方で、知り合う場、隣り合う場になる

・互いを発見し、理解しあう機会と捉えられないか

事前の意識と備えで混乱回避

防災・減災のページ

第73回ワークショップ @東松島・赤井地区

むすび塾

女性視点でニーズ対応



南部中心に浸水被害



「仙台防災枠組」を踏まえたプラン「仙台市の施策」

- ・男女共同参画の観点に立った防災・復興まちづくり
- ・避難所の実態
- ・女性のための避難所や交流拠点
- ・仙台市地域防災リーダーの養成
- ・女性の視点に立った防災・復興まちづくりの推進
- ・大規模災害時における女性支援センターの運営に向けた体制整備
- ・被災に関する調査の実施
- ・防災・復興まちづくりにおける女性参画の重要性を市内に継続的に発信
- ・防災・復興まちづくりをテーマとしたイベントの開催
- ・震災復興と男女共同参画をテーマとした広報誌の発行
- ・仙台市復興財団の発行・掲載

「仙台枠組」基に男女参画加速
人材育成や備蓄品に反映

■むすび塾に参加して



- 避難所の女性の困りごと
- ・着替え場所なし、下着干せない……
- 東松島市赤井地区のワークショップ
- ・震災 1 年前に演劇で女性課題を共有
- ・事前の理解で即座に対応
- ・更衣室、生理用品配備などを実行
- ・トランスジェンダーの避難者も活躍
- ・排除や衝突課題の共有大事
- ・相互理解の努力をふだんから

福留 邦洋さん (47)

地域の会合平日昼でも



宗片 恵美子さん (68)



生活者の視点生かして

「守られる側」の意識はどうか

毎月11日掲載

防災・減災のページ

第68回ワークショップ @多賀城

むすび塾

訓練参加で相互理解を



多賀城にあり、障害者の命を守る方策を話し合う参加者。多賀城市民会館の多賀城ワークショップ

障害者の犠牲を防ぐ

「災害時の避難は、障害者にとって大変なことです。特に、車いすの人は、避難場所まで移動するのが難しいです。また、避難場所での滞在も、障害者にとっては大変なことです。私たちは、障害者の犠牲を防ぐために、避難場所の確保や、避難方法の改善に取り組んでいます。」



訓練で実施した、多くの人々の避難を支援する参加者。多賀城市民会館の多賀城ワークショップ

死亡率 全住民の倍

「災害時の避難は、障害者にとって大変なことです。特に、車いすの人は、避難場所まで移動するのが難しいです。また、避難場所での滞在も、障害者にとっては大変なことです。私たちは、障害者の犠牲を防ぐために、避難場所の確保や、避難方法の改善に取り組んでいます。」

浸水面積約10%

「災害時の避難は、障害者にとって大変なことです。特に、車いすの人は、避難場所まで移動するのが難しいです。また、避難場所での滞在も、障害者にとっては大変なことです。私たちは、障害者の犠牲を防ぐために、避難場所の確保や、避難方法の改善に取り組んでいます。」

壁壊し防災の担い手に



日本赤十字社多賀城支部 矢吹 文蔵さん(72)

地域住民の支援不可欠



「アドバイザー」から

■むすび塾に参加して



多賀城

東日本大震災発生後、阿部 一彦さん(65)

■障がい者と災害のワークショップ

当事者からの発言

「町内会の防災訓練に参加したら、車いすは自分だけだった。電動車いすは持ち上げるのに6人必要。こういうことを周囲に知ってもらわないと、災害時は助けを得られない。私たちは、**自らの姿を地域の人たちにもっと見せる必要があるのではないか**」

「**私たちは一方的に、助けられる存在だけでいいのか。障がい者も、防災の担い手として位置付ける必要がある。ふだんから一緒に参加する、参加させる発想を社会に求めたい**」

なぜ

**助かろうとするのか
助からないといけないのか**





- ・死にたくないから
- ・まだやりたいことがある
- ・未来に命をつなぐため
- ・親からもらった命を粗末にしてはいけない
- ・家族を悲しませたくない
- ……などなど

■ 愛知の中学3年生

「自分が助かれば、人を助けられるし、壊れた街を立て直す力になれる」

自分が助かると

- 人を助ける側になれる
- 人のいのちを救える
- 被災後の地域や人々を支えるチカラになれる

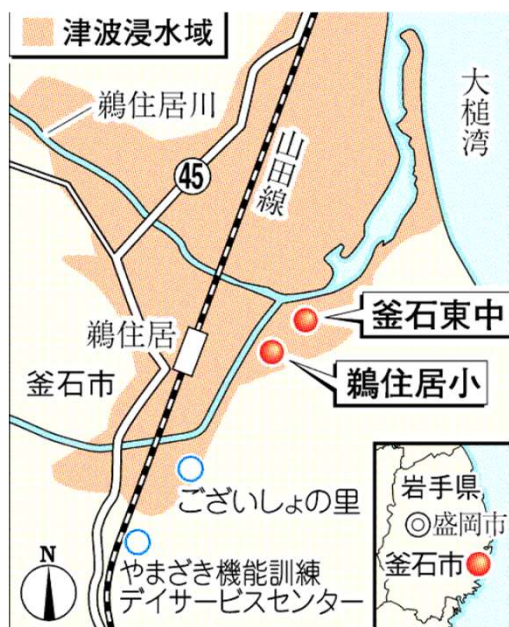
• 人権感覚の大切な基盤

 人のために自分の存在がある、自分のいのちはある

- 災害で「助かる／助からない」「助ける／助けられない」について考えると、それはクリアに腑に落ちる

岩手県釜石市 鵜住居地区の被災

- ・10m超の津波に襲われ、街が壊滅状態、330人犠牲
(防災センターに逃げ込み、160人以上犠牲)
- ・河口付近に並列の釜石東中、鵜住居小、3階まで津波
- ・生徒210人、児童360人がいち早く駆け出し避難
- ・二度三度と避難先を変え、住民とともに1000人高台へ



出典・いわて震災津波アーカイブ／提供者・釜石市

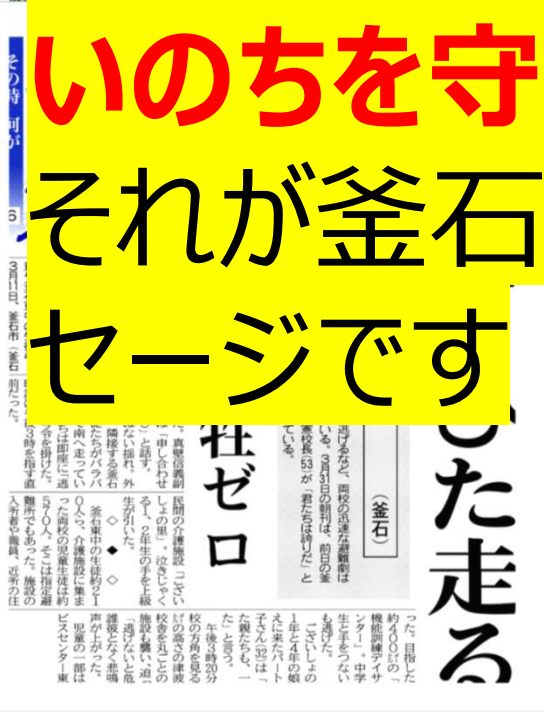
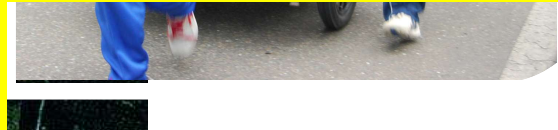
自分の避難行動は、ほかの人の避難に結び付く

自分のいのちを守る行動は、ほかの人のいのちを守ることにつながる

それが釜石の事例が伝える皆さんへのメッセージです

- ・率先して避難できる人になろう
- ・助けられる側から助ける側になろう

👉 周囲の避難を引き出し、
多くの大人のいのちも救った



東日本大震災の避難生活でも中学生が大きな力になった

東日本大震災で中学生たちは、災害直後の避難生活でも自分たちにできることを見つけ、積極的に取り組みました。新たなことではなく、普段から行ってきたことを生かし、避難生活の大きな力となり

子どもには助ける・支える力がある

だからこそ、自分が助かって、いのちを守り、暮らしを支え、将来は被災した地域を盛り立てていこう



とめ
(登米市)



いわぬま
(岩沼市)

そう呼び掛けていきましょう

そうじ
難所の掃除



防災に力を入れること、助かることの意味が2倍、3倍になる



けせんぬま
(気仙沼市)



やまもと
(山形市)

出典・宮城県教委・防災副読本「未来への絆」(中学校)

避難を あきらめる高齢者を どう説得するか

(災害が起きてからではなく、平時からの説得)

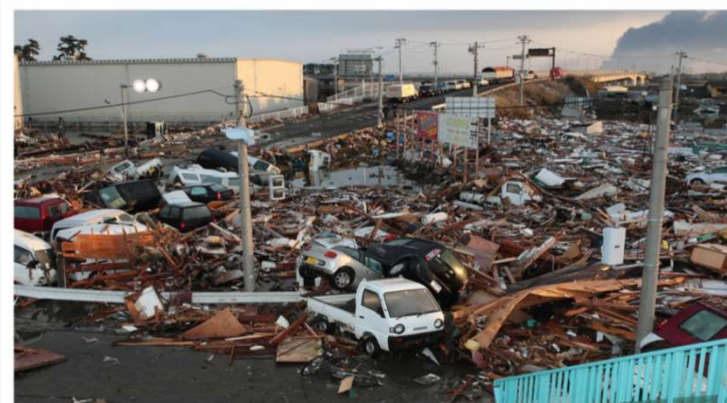
- おじいちゃんに死なれたら悲しい、と孫に言わせる
- 死んでいいなんて、言うな
- 何歳になっても、生きているだけで役に立っている
- あなたを助けに行って犠牲になる人もいるからダメ
……………などなど
- そんなにごねるなら、構わない、勝手にしろ、と言う

**そんな死に方で
いいんですか**

災害犠牲の厳しさを直視して!

津波犠牲はつらく、厳しい、現実共有を

仙台圏の遺体安置所になった
宮城県利府町のグランディ21





出典・東日本大震災アーカイブ宮城（女川町）

吊いすら滞る被災地 野外に遺体 ／窓割れた安置所 ／火葬場も被害 能登地震

(朝日新聞2024.1.14社会面)

吊いがふだん通りにできない出来事



・遺体多数で、土葬も不可避だった

高齢者だけの問題ではない

防災や訓練をおろそかにする人たち

すべてに関わること



遺体が見

地震・津波だけでもない

洪水、土砂災害、台風、火事…

すべての災害で起きること



つない

「避難」は生きるための行動

もう一つ、

人間の尊厳を守るための行動

「尊厳ある生と死」のために、

災害から生き延びよう!

勇気ある避難行動を!

震災を知り、被災地を見つめた皆さんに 深く考えてほしいこと

- ・自分のいのちと尊厳を大切にする
- ・隣人のいのちと尊厳を大切にする
- ・互いの「人権」を守り合える社会を
築くことをみんなで誓い合おう
- ・災害＝戦争、差別、いじめ…×
- ・災害に向き合った感覚を未来へ

震災や災害に向き合って、避難所の
こと、そして最も大切な避難のことを
深く考えると

いのちと尊厳(人権)を守り合う社
会づくりという願いを

みなで、てらいなく、真正面から共
有できるのではないか



宮教大研修に参加した中学教員の振り返り

「防災教育は、命と向き合う教育」。多くの語り部さんから、**繰り返し伝えられた言葉である。**これまでの取り組みを振り返ったとき、知識の伝達のみで終始したり、避難場所までの速さを向上させるだけに終わったりしていたようなところが多い。しかし、命を守るということは単に死なずに済むというだけではない。**その人の尊厳を守り、人生を守ることでもある。**さらにはその人の家族までも守ることになる。

2023.8月研修に参加した中学教諭のレポート

「自分は何も分かっていなかった。防災教育とは何か、教師とは何か、生きるとは何かを突き詰めて考えていなかった自分の甘さを思い知らされた。**研修から戻ると物の見え方が以前と明らかに違っていた。**土地のわずかな高低差に敏感になった。駅などで車いすの方や高齢者の姿を見ると避難ルートを確認していた。全てが東日本大震災と繋がった。災害は必ず起こる。その時**いのちを守るために、学校、教員が果たす役割は大きい。**今回の研修で学んだことを実践する。**熱と覚悟をもって教師の仕事に当たることが私の使命**である」(抜粋)

災害と人権

特に、「いのちと尊厳」を視点の中心に
据えながら、防災を考えてみませんか

**災害に向き合うことから、人権を捉えな
おしてみませんか**

ご清聴ありがとうございました